

第3回 八頭町自治基本条例（仮称）策定委員会 会議録（概要）

日時：平成21年5月22日（金）19：00～

場所：八頭町役場 本庁舎 2階 第1・2会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 意見交換

■ 「まちの課題」・「八頭町の理想像」等について

＝ 「まちの課題」、「八頭町がこんなまちだったら良い」などについて意見交換を行った。

【 意 見 】

≫ 医学の進歩によって長生きできるようになり、また、少子化がこのまま続けば、少子高齢化が更に進むことになる。何とか歯止めができないだろうか。

また、前回の会議でも過疎化や限界集落についての話が出たが、都会のように便利であることもいいことだと思うが、山村部の荒廃などが課題だと思う。

≫ 小さな個別課題はいろいろとあると思うが、まちの中のそれぞれの活動が「浮いてこない」というか、「沈んでいる」と感じる。「まちの特色」を感じるようなものがないのではないか。

「鳥取市の脇役」ではなく、「一つのまち」として主張できるもの、また、町民の皆で共有できるものがない。

≫ 先ほどの意見に全く同感である。住んでいるまちに「誇り」が持てることが大切だと思う。八頭町には特色がないように感じる。誇りが持てるまちづくりをしなくてはいけない。それがまち全体に定着していない。

≫ 青年団活動として子供とふれ合うような活動をしている。以前は旧町だけの活動だったが、合併して活動範囲が広がり、また、子どもと接する機会が増え、ふれ合う子供の数も増えた。

子供は将来を担う大切な存在であり、子供を守る防犯活動も大事だし、子供があいさつをするだけでまちに活気が出る。大人と子供がふれ合うことが大切で、皆が顔を知り合い、お互いがあいさつするだけでも元気なまちになる。大人と子供がふれ合う機会がもっとあれば、地域の活性化が図れるのではないか。顔を見合うことで、まちがつながっていくと思う。

<委員長>

= 何か一つの「テーマ」に沿った活動をすることもできる。例えば、「英会話」というテーマで大人から子供まで一緒にふれ合うことなど。

そういった活動を行うにあたって必要なものはないか。会場や場所、備品、また、お金などが必要になると思うが、そういった施設や設備、活動資金などがあるということも活動するうえでは重要なことになる。

≫ 「住民の声」が反映されるようなまちになればいいと思う。行政がその声を吸い上げるような仕組みをつくってみてはどうか。例えば、「目安箱」などもその一つだと思う。

<委員長>

= 住民個人の声や意見の吸い上げも当然大切だが、コミュニティの意見として、住民個別の声を集約したものを行政に主張、要望することもできる。

≫ 「八頭」という名前は、全国的には高校野球の「八頭高校」で知られていると思う。折角そういった学校が町内にあるのだから、それをいい意味で地域活性化に利用してはどうか。

例えば、生徒を巻き込んだゴミ拾い活動やあいさつ運動などを行い、新聞などマスコミに取り上げてもらってイメージアップを図るなど。生徒全員が八頭町に住んでいるわけではないが、まちや地域で子供を育てることも大切だと思う。八頭町内にある「まちの学校」として捉え、行政からそういった活動を投げかけてみてはどうか。

<委員長>

= そういった活動は、「八頭高校」に限らず、まち全体としても取り組めることだと思う。そういったような精神を「町民の責務」として、条文化することもできる。

≫ まちに対して「誇り」を持つことが大切だと思う。まちの「良さ」をアピー

ルしてはどうか。一人ひとりが良さを認識すれば、誇りを持てるようになるのではないか。

<委員長>

= まちの良さをアピールし、それを守っていくことについて共通認識を持つことは大切である。

≫ 「文章」など目に見えるものであれば、共有しやすいと思う。

前回「スローライフ」というか、「ゆとり」を持った生活の話が出たが、その話を聞いて、八頭町の「良さ」を改めて実感した。

最近、町外や県外に出た若者から話を聞く機会があったが、「住んでいるときは、近所の人たちを『うるさい』というくらいに感じていたが、外に出てみて初めて、その良さを感じた。」と言っていた。

<委員長>

= まちの「10ヶ条」みたいなものがあったもいいのかもしれない。

≫ 先程、「八頭高生による取り組み」の話が出たが、確かにマナーが良いとは言えない部分があると思う。

鳥取工業高校では、地元の津ノ井地区の協力のもと、地区座談会などに高校生が参加し、地域とのつながりが深くなった。昔は高校が荒れていたが、今は良くなったと聞いている。学校側の努力もあるだろうが、そういった取り組みによる地域力も大きかったのではないかと思う。八頭町というまちとして、高校や高校生との関わりをもっと持ってもいいのかもしれない。

また、「ヤマガ」はタダでおいしい水と空気が味わえるところ。上下水道の整備は大切なことではあるが、必要のないところまで整備し、「おいしい清水がある」という良さを消してしまっていないか。

最近、姫路集落に住んでおられる方に会う機会があり、「ここは水と空気がおいしい。年をとってみて分かることだ。」と言っておられた。普通、姫路に住んでおられる方は、冬期は豪雪の影響で都市部に出て暮らされるが、その方は、「ここがいい」と言って、冬期でも姫路におられる。それを姫路に住んでおられる他の方が見て、「じゃあ、私もいる」と賛同して、一緒になって残る人もいると聞いた。そういったことも大切ではないかと感じる。

鳥取県は「人間力」が優れていると思う。ただ、いい人材を育てているのに、県外に送ってしまっている。かといって、県外に出て就職し、その後、子供が

できて鳥取に帰ってこようと思っても、仕事が無いなどで帰って来られないような状況になってしまっている。

八頭町は、合併して一つのまちになっても、まだまだ地域意識や地元意識が強すぎると感じる。そういった地域や地元を大切にする意識も必要だと思うが、イベントや行事の一本化や「地元の良さを地元の人を知る」ということにより、「一つのまちになった」という気持ちを持つことも重要だと思う。例えば、船岡には下船岡神社祭というすばらしい祭りがあるが、その地域だけではなく、まち全体で参加するような祭りになれば、もっとすばらしいと思う。まちの中の行事をお互いが知ることができればいいと思う。

≫ 船岡の祭りは、行政がもっと関わり、まちの祭りとして参加できるようになれば良いと思う。

<委員長>

= まちが一体になるためには何が必要か。八頭町を象徴するようなものを新しく作ることも一つの手段だと思うが。

≫ まち全体の行事としては「きらめき祭」があるが、昔からあるものではないし、言ってしまうえば一時的なものなので、一体感が少ないのではないか。

<委員長>

= 運動会などはどうか。マラソン大会などもある。

≫ マラソン大会は「森下広一マラソン」がある。運動会は小学校区単位でやっているのが現状。

≫ 「八頭町音頭」や「八頭町イメージソング」をもっと活用してはどうか。完成したときには全集落にCDを配布しているが、防災無線で定時に流すとか、町民にもっと定着するようにしてはどうか。

≫ 「スポーツ」と「音楽」は、どんな人でも共有でき、楽しめるものだと思う。せっかく作った「八頭町の歌」を活用した方がいいと思う。

<事務局>

= いろいろな課題や方策が意見として出たが、その「描いたものを形にするためにはどうすべきか」をうたうのがこの自治基本条例になる。

<委員長>

= まちの良さを知ること、今度はそれを守っていくことへの意識につなが

っていくのではないか。

≫ 「良さ」が当たり前になってしまって、皆がその良さに気付いていない。良さに気付くことができれば、その有り難味を感じられるようになり、それを守っていく気持ちになれると思う。

≫ 八頭町は、まち自体の規模も小さいが、民間の企業も小規模なものが多いので、連携することが大事ではないか。まちづくりに関しては、現状は行政主導だと感じているが、本来は民間主導であるべきと思う。

個人や町内団体のみならず、企業などの商業的活動にも利用しやすい多目的なホールがあればいいと思っている。公民館だと商業的には利用しづらいので、今は町外の施設を利用している。町内にそういった施設があれば、町内完結することができ、地域活性化がより一層図れるのではないかとと思っている。

≫ 確かに、公共施設は商業的な活動に対しては、利用基準が高くなっており、営利を伴うものには厳しい基準となっている。もっと、使いやすくすることも必要だと思う。

≫ 八頭町が潤うためには必要だと思う。

≫ 学校適正配置の件については答申が出たが、統廃合の方向になると考えられるので、その場合、使用しない校舎が残ることになる。そうなれば、学校施設の活用ができるのではないか。

<委員長>

= 自分のまちで生活が完結することは大切である。アイデンティティの確立にもつながるのではないか。

≫ 高齢者が集う場所が地域に少なくなった。以前は農協の支店が各地域にあったが、なくなってしまったからは、コミュニケーションをとれる場所が少なくなったのではないか。

高齢者がもっと元気になるように、そういった場所をつくることに行政が手助けをしても良いのではないか。過疎化や高齢化が進むなかで、コミュニケーションがとれる場所があることは大切だと思う。

≫ 公民館活動で、以前は地元の改善センター等で開催されていた行事が、地区公民館での開催になり、距離的に遠くなったことで参加しづらくなってしまった。

- ≫ そうなってしまう前に、声や要望を挙げるなど、何とかすることができなかつたのだろうか。
- ≫ その時は、声を届ける手段が分からなかった。
- ≫ 私は、役場や地区公民館などが近くにあり、町内ではとても便利なところに住んでいると思っているが、そういった事が起こっていることさえ知らなかった。自分の事しか考えずに暮らしていたのかもしれない。知ってさえいれば、同じ町民として声を上げたと思う。
- ≫ 私も、自分のまわりの事しか考えていないかもしれない。
また、他にも、地元にお店がないという問題もある。

<委員長>

= 住民のものとしての公民館活動の在り方を考える必要がある。

また、商品を買う店舗がないことについては、配食や配達などのサービスを行うこともできる。行政のみならず、NPO等による活動実施も考えられる。

「祭り」については、青年団として何かしらの形で参加することはできないか。

- ≫ 町の祭りには、参加させてもらっている。地区の祭りにも参加している。ただ、団員数が少ないし、皆がそれぞれ仕事を持っていて、実際に参加できる人も限られている状態なので、自分たちで事業を起こすことはなかなか難しい。ただ、他の事業などの土台があれば、手を取り合って協力することで、参加はできるし、参加していきたいと思っている。

現在の団員は、八東と船岡地域の人のみで、郡家地域の人はいない。今は、青年団に対する認知度が低く、団員集めが難しい状況になっている。勧誘に行っても、親御さんに断られて、本人にさえ会わせてもらえないこともある。青年団の活動に対するイメージが良くないのかもしれない。

<委員長>

= 青年団の活動範囲が広すぎて、参加しづらいのではないか。テーマが絞られていた方が、趣旨が分かりやすく、割と参加しやすいと思う。

<事務局>

= 青年団は、以前は年間100万円程の事業をしていた。それは、会員が多

くて、会費がかなり集まっていたからである。活動に対する考えや主義もしっかりと持ちながら、やりがいのある活動をしていて、充実感もかなりあったと思う。

ただ、婦人会などもそうだが、特定の目的を達成する団体ではないので、その点から言えば、今は団員集めに苦勞するのかもしれない。

≫ そういった状態については、認識不足で、全く知らなかった。以前は、青年団に入らないことに引け目を感じるくらいだったが。

<委員長>

= 青年団の「売り」をアピールするとすれば何か。

≫ 挙げるとすれば「子供とのふれ合い」だと思う。今、「ナイトウォーク」の実施を企画しており、子供だけではなく、親御さん、保護者の方にも参加していただけるのではないかと考えている。

夜のまちを歩けば、変わった目線で「まち」を見ることができし、危険な場所などが分かれば、防犯にもつながり、例えば、防犯灯の設置などに結びつくかもしれない。

<委員長>

= それは充分まちづくりに関わっていることになっていると思う。

まちづくりへの関わり方には、大きなものでは住民投票などがあるが、まず、身の周りのことを解決することが第一歩になる。そのためにはどうすればいいかを考えることが必要である。

≫ 広島県の田舎では、すばらしい田園風景が残っており、「ある人が山を買って、果樹を栽培してフルーツ狩りなどができるようし、それが人を呼んで、近くに観光施設ができ、さらに観光客が増えた。」という話を聞いた。その人も、元々は、観光客を呼ぶつもりで始めたわけではなかったのに、結果的に地域が活性化した。八頭町も同じようなことになれば、とてもいいことだと思うが、町として受け入れできないか。

<事務局>

= 現時点で、そういった受け入れは、担当課でも考えていないと思う。

ただ、今年度から関西事務所を設置し、大阪に職員を配置した。関西圏の情報収集と情報提供による企業誘致や特産品の販路拡大が目的である。他に

も、大阪の住吉や東京の武蔵野との人的交流も行っている。

いずれにしても、1年や2年で根付くものではなく、目に見えるようなものにはなかなかならない。今は、まちの良さを発信している段階で、最終的には、八頭町にしかないもので人や企業を呼び込みたいと思っている。

<委員長>

= まちの良さをよりアピールすることができる手法を考える必要はある。しかも、皆が楽しんでできる方法がいい。

≫ 農業に関しては、「農業だけではなかなか食べていけない」という現状があり、担い手が減っている。農協任せではなく、行政ももっと取り組んでいくべきだと思う。

いずれにしても、まちの「中」からは八頭町の良い点に気付きにくいので、「外」からの声をもっと聞きたい。

<委員長>

= 「外」からの意見は、何も「鳥取県に全く関係ない、縁もゆかりもない人」からの意見でなくてもいいのではないかな。鳥取から県外に出たような、鳥取にゆかりのあるの人に聞くのが一番いいと思う。

≫ 鳥取は、「声を上げれば叩かれる」と感じてしまうような県民性があるのではないかな。

<委員長>

= 確かにそういった県民性はあるかもしれないが、「声を挙げやすい仕組み」をつくることで、意見を出やすくすることはできると思う。

≫ 「声を吸い上げる」方法を行政は考えるべきだと思う。

≫ 情報提供の方法について、広報誌での周知もいいが、今、ケーブルテレビ整備の検討もされているので、それを活用した周知を考えてはどうか。広報誌は、家族で同時にみることができないので、皆が見ているわけではないと思う。ホームページの活用も考えるべき。

また、役場に総合案内窓口があったらいいと思う。分野によっては、どの部署に尋ねたらいいのかわからないことがある。

行政組織の中ではそれぞれの担当があると思うが、「縦割り」は住民側から見れば、関係のないこと。町内団体の縦割りもある。横の連携がない。

<委員長>

- ＝ 職員の指揮監督や行政組織内部の連携などは「町長の責務」になる。「町長のリーダーシップ、指導力」が発揮されるかどうかということに関係する。

【まとめ】

- ≫ まちの「良さ」・「良いところ」の自覚
- ≫ 「住民の声」がまちづくりに反映される仕組みづくり
- ≫ 行政による住民団体の活動の支援
- ≫ コミュニティの役割とその支援
- ≫ 町民が一体感を持つことができる交流活動
- ≫ 「八頭町」としての住民の共同意識
- ≫ すばらしい「農村風景」などの文言は、前文に入れることも可能

※ 今回は、身近にある「まちの課題」について、意見交換を行ったが、次回は、より大きな範囲でのまちづくりに関する意見交換を行う。

例えば、「私が町長だったら、こうする。こんなまちにしたい。」など、まちづくりをより大きく捉え、まち全体を見据えたまちづくりについて、必要な仕組みや理念（＝考え方）、また、「町長」・「行政」・「コミュニティ」・「議会」のそれぞれに必要なことなどについて、意見発表・意見交換を行う。

4. 閉 会

以 上。